JRPみえばん
百万石
55
1980・9
伊勢市古市町
東　洋介
百万石編集部

# これはおもろい 多忠雑想 マスクさんのだより

冷夏の残暑お見舞申上げます。今日は長々と乱文をつづろうかと思います。乱筆スミマセン。

さて名松線は、7月の末と8月盆休みと2回行きましたが、できたコンタクトを自分で見てもらってもいいモノが見当たりません。8月は民宿のような所で14日15日と一泊して平本氏に見てもらってもいいモノが見当たりません。8月は民宿のような所で14日15日と一泊して朝早く八知の村を撮ろうと思いましたが、起床9時では何ともしかたありませんでした。

カメラ2台でリュックをかついで歩くとシャッターを切るのか汗をふくのか、自分でも無意識にどちらかを必ずしていました。（コラ富実子ジャマするな）と9ヶ月の子供がはしゃいでくる。結局名松線は撮影数45本になっただけ、こんどは9月7日か14日に行く「ひつ」の駅ふきんを集中的に撮ろうと思います。

この春の撮影会でA氏が川の土堤から向う岸に向ってカメラをむけていました。そこで「何か見えるのかな」と聞くと「目を開けて見やなあかんぞマス君」とすぐにかえってきました。この頃は未だ※

さてそれからJRP三重支部に入会してから半年ほど経ちましたが、自分はこれで何か変化があっただろうか、と自問自答してみると、まず何か風景とか変ったモノを見ると、絵になるかな 写真に無理かな と思うことが多くなった。そして美しいものはやはり美しいと正直に感じるものがある。（写真のことはまだ「シ」の字も知らないはずですが、僕には僕なりに写真の気構えみたいなものを持っているつもりです。）

※100ミリとか135ミリを持っていなかったので、自分の28ミリ50ミリの視野でしかモノが見えなかったから あのような声が出てしまったと思うのです。

次に6月の荒神山写真講座の時には、2日めの石山観音においてN氏が「マス君、よくまあそんなに撮るなあ、僕なんかせいぜい2,3本だ、第一石仏なんてどう撮ってよいか全然わからんわ」と言い、僕は「別にさー、見た通り思うように シャッターを押せばええやんか」「何か本で見たとか写真集を見た同じようなモノがあれば その写真を思い出して 先ず同じような写真をとるように努力する、そして自分で好きなアングル画角等でとればいいじゃないか」

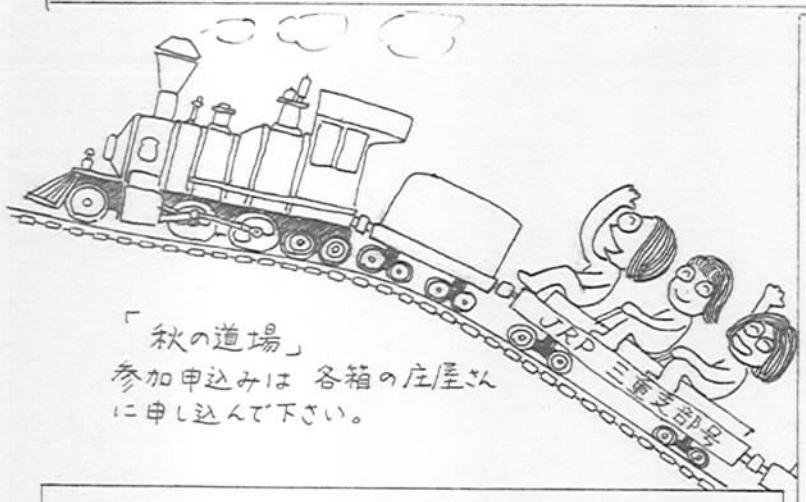
（ここまで言ったがどうかは定かではない。）

（たった今、巨人が阪神に勝った、すごく気分がいい）

そして写真はというと 記録的な家族写真ばかりで、人サマの前に出せるようなモノは1枚もない状態であります。（自分ではいいモノだと思っても、いざ伸ばしてみるとつまらないものばかりです。平本氏とだべってもそんな話がいつも出ます。それで松阪市展に出すものさえないありさま。ヌードも一度だけは見たいと思い 高いゼニを払って撮りましたがあれっきりいっておりません。しかしアットン氏に送ってもらったカラーは四ツ切に伸ばしてカメラ店に応募したら佳作になり両面テープを賞品にもらい 気はよくしました。（ああまた子供が…）

だらだらと長くてすみません。このへんでまとめにします。（マトマルカナ）

とにかく写真を始めて何もかも張り合いができて最近充実した生活を送っています。以前は 飲んで遊んで一ヶ月でした。それが近頃はよい友達が増えました。やっぱり写真は創造性も大事だけど 僕は一番は記録だと思う。写真でしかできない記録だと思う。（益 健二）




「秋の道場」
参加申込みは 各箱の庄屋さんに申し込んで下さい。

## 山口組系のホーム局と呼ばれる男 喜多川善也氏 久々のご登場

今、東京国立近代美術館の中にいます。圧到されました。上京する前から予定していたポンピドーセンター20世紀の美術は幼稚しました。（写真4点、マニレイの作品？です。ただピカソの素描「女の顔」やさしい女性です。このピカソなら僕にもわかります。またほほえみが出ます。

常設展に入ったところ「あゆみ」新海竹太郎の彫刻、ウーンと半日でも一日でも坐りこんでいたい。西欧のにおいのない日本女性それも明治大正の女性、彫刻は生まれて初めてですが、本物を見た！圧到された！

「南風」のイメージ、そのまま！夏の海！涙がでるくらい魅かれる。

「おとずれ」尾竹竹坡「胡麻畑」奥村土牛。

やはり僕は日本人だ。

昨日は圧到されてしまい途中で見れなくなったので、受付を口説いて招待券1枚貰って今日も見ています。この感動を自分の創作に生かすことはできそうもありませんが、（写真のための写真美術館の存在の必要性を痛切に感じました。

## 知っておこう ウィスキーの話 ①

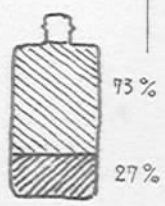
だいたい2,000円以上のウィスキーを特級ウィスキーと思って下さい。（ウィスキーやお酒に特級一級二級というようなランクを付けるのは世界広しといえどもわが日本国だけ、まずそれを誇りと致しましょう）そしてウイスキーにとって特級の資格↓規格というのは、次のうちどちらかの条件が満たされさえすればいいのです。

イ、モルトが27パーセント以上含まれている。

ロ、アルコール度数が43度以上あること。

だから極端にいうとモルトは5パーセントでも、アルコール度数さえ43度あれば特級の規格に合格です。ところがまあなんぼでもそんなのは誰も買いません。またはんたいにモルトを30パーセント40パーセントも入れたらおいしいにきまっていますがメーカーの経営方針が許しません。

やはり落ちつくところはモルト含有率27パーセント前後が、実際に市販されている特級ウィスキーの状態でしょう。（但しロバートブラウン、オールドサントリー級のでは3,000円を越えるとまた違ってきますがこれは後述）



ではモルトが27パーセントなら残りの73パーセントはいったい何？

ロバートブラウンのテレビコマーシャルを見ると原酒十原酒と出てきます。そしてよく気をつけて見ると はじめの原酒の字の上に小さくモルトウイスキー、あとの方に小さくグレンウイスキーと書いてあります。だからロバートブラウンはモルトが27パーセント前後、グレンが73パーセントぐらいの比率でブレンドしてあると想像できます。

コマーシャルでロバートブラウンが訴えたいことは、ブレンドしてあるのはグレンウイスキーだけです といっこと。なぜではこんなことをわざわざコマーシャルで流すのか。

ほんとうは長い間日本人は、ウィスキーは（しかも特級くらいになれば、）ぜんぶ正ものウイスキー即ちモルトウイスキーでできていると思っていたのです。だから もっと末長く思い続けてくれるなら、メーカーは わが世の春がつづくのですが そうはいきません。だんだんと ばれてきました。

だからどうせばれてきたのなら、我が社の製品はモルトとグレンだけです、他社の製品については知りませんよ と言いたいわけです。これは実に上手な暗示です。このコマーシャルを見ていれば誰だって、ほかのウイスキーはもっと他のものを入れているのかと思ってしまいます。

もちろんライバルは オールドサントリー。ところがサントリーの方は黙して語らずといったところ。ではもうひとつのまぜものとは何か。それがニュートラルスピリッツ（醸造用アルコール）です。（つづく）